

日本線虫学会ニュース

The Japanese Nematological Society News

目次

◆ 会長就任挨拶（奈良部 孝）	1
◆ 2019~2020 年度学会運営体制（学会事務局）	3
◆ 自己紹介（北林 聡）	4
◆ 第 14 回九州線虫懇談会参加報告（蔵下 はづき）	5
◆ 編集後記	6

会長就任挨拶

奈良部 孝（農研機構 北農研）

平成から令和に代わり新しい時代を迎えました、というフレーズが少し古くさく感じるようになりました。とはいえ、令和最初の学会ニュースを皆様にお届けできるのは、大変喜ばしいことです。私が会長に選出されてから早6か月が経過してしまいましたが、本紙面をお借りして、新会長就任の挨拶を申し上げます。岩堀前会長が引っ張り盛り上げてくれた今の日本線虫学会路線を引き継ぎ、次の世代に高いポテンシャルを保ったまま引き渡せるよう、この2年間頑張っていきたいと思います。本学会への皆様のご協力、ならびに会長始め役員・幹事への叱咤激励をよろしくお願いします。

学会活動で欠かせないのが、大会と会誌の充実です。大会については、ここ数年、初参加の方や学生会員の参加が目立つようになり、参加者総数も増加傾向です。先日のつくば大会では総勢120余名が参加し、一般講演に加え、シン

ポジウムやポスター発表等において、活発な討論が行われていました。大会事務局をはじめ関係者の皆様のご準備・運営のご努力に改めて感謝申し上げます。加えて、昨年からはまった「若手研究者ポスター賞」が大会に花を添えていたと感じました。今大会では、いずれも甲乙付け難い出来映えのポスター10点がエントリーされ、評議員および編集委員による投票の結果、小野雅弥さん（佐賀大）と鈴木康平さん（三重大）がポスター賞の栄冠を射止めました。この賞が今後も継続され、回を追うごとにレベルが向上し、線虫学会の発展につながることを期待します。

一方会誌ですが、編集委員長はじめ編集担当者のたいへんな努力により年2回発行は維持されているものの、手元に届く会誌は薄く、6月と12月の定期には届いていないのが現状です。海外の一流誌と同レベルの日本発の学術論

文を掲載する、というスタンスは維持しつつ、これまで適当な掲載誌がなく埋もれていた身近な線虫研究、日本語の論文を発掘し、積極的に掲載できればと考えています。この相反するような方向性を実現すべく、前会長である岩堀さんに今期の編集委員長をお願いしました。また、今期から新たな編集委員も加わり、編集体制が強化されました。皆様からの投稿が一番の頼りです。学会 Web サイトで投稿規定を確認のうえ、下記投稿先への積極的な投稿をお願いします。

E-mail: editor*senchug.org

最後に、事務局体制と皆様への連絡手段についてお知らせします。これまでは一つの研究機関（主に農研機構）内に事務局を置き、その機関内で事務局役員を分担してきました。しかし昨今は、研究員の削減やそれに伴う業務量の増大等により、従来のような事務局運営が難しい状況です。そこで今期は、組織上の事務局は北農研に置くものの、実際の担当者は複数機関に分散して配置しました。事務局内での情報伝達はメール等で十分であるものの、皆で集まって行う作業：発送作業等は実施不可能です。そのため今期から、会誌は印刷所から直接発送、学会ニュースは郵送を廃止しメール配信のみと

しました。また、ニュース内で提供してきた情報のうち、速報性が要求されるもの（大会案内等を含む）は、直接メーリングリストにより皆様にお知らせします。これらが確実に届くよう、配信先のメールアドレスの登録および変更届等は下記庶務幹事までお知らせください。

E-mail: shomu*senchug.org

学会ニュースについては、冊子体で読むのを楽しみにされている方も多いと聞きますが、これら事情を考慮し、ご了承いただけると助かります。その分、電子版ならではの記事や編集にご期待ください。また情報発信の面から、少しずつ学会 Web サイトの充実も図っています。下記アドレスをお気に入りに登録し、時々チェックしておく役立つ情報が得られます。

<http://senchug.org/>

新体制に移行してからニュースや会誌がしばらく発行されず、もたついておりましたが、今後は徐々に軌道に乗ってくると思います。今回の改革により、事務局と事務経費の軽量化が進み、学会財政の健全化にもつながると考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2019~2020 年度学会運営体制

学会事務局

会長選挙および評議員選挙の結果、ならびに評議員会の承認を得て、2019~2020 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、選挙結果については本学会ウェブサイト (<http://senchug.org/>) をご覧ください。

会長：

奈良部 孝（農研機構 北農研）

選挙管理委員：

林 琴美（ホクサン（株））

佐久間 太（雪印種苗（株））

評議員：

長谷川 浩一（中部大学）

岩堀 英晶（龍谷大学）

神崎 菜摘（森林総合研究所 関西支所）

小坂 肇（森林総合研究所）

串田 篤彦（農研機構 北農研）

岡田 浩明（農研機構 中央研）

竹内 祐子（京都大学）

豊田 剛己（東京農工大学）

植原 健人（農研機構）

吉賀 豊司（佐賀大学）

編集委員長：

岩堀 英晶

編集委員：

相川 拓也

荒城 雅昭（農研機構 農環研）

Gaspard, J. T. ((有) ネマテンケン)

岩堀 英晶

神崎 菜摘

菊池 泰生（宮崎大学）

小坂 肇

串田 篤彦

水久保 隆之（丸和バイオケミカル（株））

Oka, Yuji（イスラエル農業省）

岡田 浩明

新屋 良治（明治大学）

竹内 祐子

豊田 剛己

吉賀 豊司

事務局長：

長谷川 浩一

会計幹事：

伊藤 賢治（農研機構 北農研）

庶務幹事：

坂田 至（農研機構 北農研）

編集幹事：

立石 靖（農研機構 中央研）

相川 拓也（森林総合研究所 東北支所）

相場 聡（農研機構）

上杉 謙太（農研機構 九沖研）

会計監査：

荻野 瑠衣（道総研 中央農試）

小鍵 亮介（雪印種苗（株））

学会ニュース編集小委員会委員：

村田 岳（農研機構 九沖研）

酒井 啓充（農研機構 北農研）

（以上、役職ごとにアルファベット順）

自己紹介

北林 聡（長野県野菜花き試験場）

こんにちは。長野県で野菜の虫害を担当しております北林と申します。よろしくお願いします。長野県は本州のほぼ中央部に位置し、日本アルプスなどの急峻な山脈を抱え、標高が高いことを一つの特徴としております。農業生産も冷涼な気候を生かし、主に夏のレタスやキャベツ、ブロッコリーなどの生産が盛んです。

私が初めて取り組んだ線虫に関する業務は、レタスのネグサレセンチュウに対する薬剤効果試験でした。当時、職場の近くでネグサレセンチュウが均一に発生している圃場を見つけられず、線虫試験の大変さを思い知らされました。平成 29 年 9 月 1 日には、テンサイシストセンチュウ (*Heterodera schachtii*, 以下 Hs) が長野県内で確認されます。この時、私自身はシストセンチュウのイメージさえわからない状態でしたが、幸いにもこの年の第 25 回日本線虫学会・札幌大会においてジャガイモシストセンチュウのシンポジウムがあり、急遽、参加させていただきました。この学会で多くの線虫専門家の皆様に知り合う機会を頂いたことが、現在の Hs 対策における重要な一歩となりました。

長野県に戻り、Hs の防除対策として、まず取り組んだのが、防除薬剤の登録拡大です。試験方法もよくわからない状況でしたので、学会での“つて”を頼りに北海道農業研究センターを訪問させていただき、奈良部孝博士、串田篤彦博士などからシストセンチュウの取り扱いや試験方法、試験用の隔離施設について助言を頂きました。

重要病害虫である Hs は「発生ほ場からの

土壌の移動・寄主植物の植栽」が禁止され、調査にも隔離された施設が必要となります。そのために、発生地に近い県農業試験場の原村試験地の古い建物を整備し調査の拠点としました。限られた予算の中で、整備はほぼスタッフによる手作りでした（写真 1）。

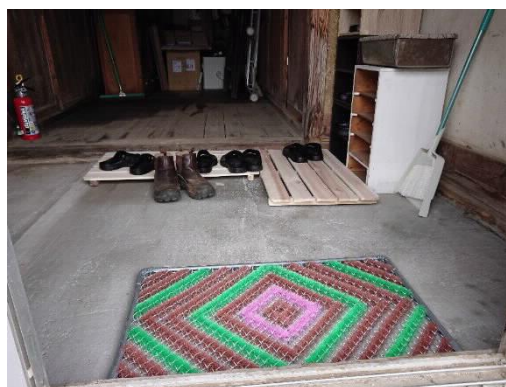


写真 1 土間コンの張替え（施工後）
＜モルタルの打設と左官は筆者による。＞

古い建物ですが、自ら手をかけた研究室をかなり気に入っています。元号が変わり「令和」を迎えました。その中にありながら、木造研究室で白衣を着ての作業はさながら“昭和の研究室”といった趣です（写真 2）。



写真 2 現在の調査の様子

これから高原は新緑の心地よい季節を迎えます。ご紹介した試験地も、ある意味、国内では珍しいシストセンチュウ専用の施設でも

あります。近くにお越しの際はぜひお声がけください。苦労話を交えてご案内したいと思います。

第 14 回九州線虫懇談会参加報告

蔵下 はづき（都城工業高等専門学校）

都城工業高等専門学校専攻科物質工学専攻の蔵下はづきと申します。指導教員の黒田恭平先生と共に 3 月 16 日に九州沖縄農業研究センターで開催された第 14 回線虫懇談会に参加いたしました。お声をかけていただいた佐賀大学の吉賀先生に厚く御礼申し上げます。今回が初めての参加ということもあり、線虫を専門に研究されている方々の前での発表はとても緊張しましたが、皆さまのアットホームな雰囲気に助けられ楽しく発表することができました。

今回の講演では、佐賀大学、龍谷大学、熊本大学、九州沖縄農業研究センターの方々の発表を拝見しました。私の研究では植物寄生性線虫を標的としているため、ネコブセンチュウやイモグサレセンチュウ等の題目は特にどういった実態があるのか、どのような実験をしているのか、といった点でとても勉強になりました。また、細菌食性線虫の昆虫への摂取や、誘引物質の解析、ウンカシヘンチュ

ウ利用研究など、線虫に関する様々な分野の研究について学ばせていただきました。今回の講演で学んだことは、今後の自分の研究の参考にしたいと考えております。

これまで、私は土木環境工学、微生物学や分子生物学をバックグラウンドとした研究者の方々と共に植物寄生性線虫害の抑制技術の開発などの研究を行ってまいりました。しかし、今回の線虫懇談会に参加させていただくことで線虫を専門とする方々の視点を生で感じることができ、今後の研究に新たな視点を取り入れ、さらに研究を進めることができるのではないかと思います。現場の農業従事者と日本国内、世界の課題である植物寄生性線虫による連作障害を抑制可能な技術開発に今後も励んでいきたいと思っております。この度は貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。今後共どうぞ何卒宜しくお願い申し上げます。

編集後記

◆今回からニュースを担当します酒井@北農研です。前任の竹内さんほど細やかにはできませんが、続投の村田さんと協力してニュースをお届けしたいと思います（竹内さんおつかれさまでした！）。新会長からのご案内の通り、学会ニュースは冊子体を廃して電子版となりました。これを機に、サイズを含めスタイルを一新しました。大会情報や選挙結果などは学会ウェブサイトでの情報提供にシフトしていますので、お見逃しの無いようお願いします。また、記事ネタ（情報提供含む）やニュースに係るご意見を随時お待ちしておりますので、news*senchug.org（ニュース担当アドレス）までふるってお寄せください。よろしくお願いします。（酒井）

◆2016年5月号よりニュース編集を担当させていただいておりましたが、今号をもって退任し、農研機構・北農研の酒井さんにバトンタッチすることになりました（酒井さん、お引き受けくださってありがとうございます！）。記事をお寄せいただいたみなさま、編集にご協力いただいたみなさま、そしていつも迅速な編集作業をしてくださった相方、村田さんに心より感謝申し上げます。

今号からウェブ配信となり、より速報性高く生まれ変わった日本線虫学会ニュース、今後ともご愛読くださいますようお願いいたします。また、ニュースの充実には会員のみなさまからの情報提供、寄稿が欠かせません。引き続き協力賜りますようお願いいたします。（竹内）

「フジワラ」の線虫関連機器

ペーパークリスタル法によって線虫を分離
線虫分離装置



シスト線虫の分離に
シスト分離装置



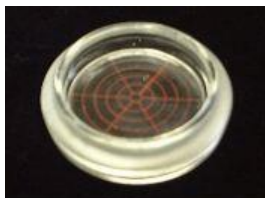
裏表両方から視察できる
H-S スライド



表層土壌の線虫採取に
線虫スコップ



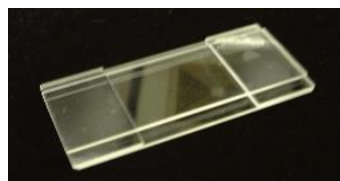
線虫の計数に便利
シラキュース時計皿



線虫の保存に
線虫固定皿



1ml 中の線虫計数に
線虫計数板



安価に計数したい方は
プラネット格子枠付スライド



長時間の視察にも目に優しい
シスト計数皿



株式
会社

藤原製作所

〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-46-16

Tel 03-3918-8111 Fax 03-3918-8119

E-Mail info@fujiwara-sc.co.jp

☆詳しい情報はホームページで！→ <http://www.fujiwara-sc.co.jp/>